

令和5年2月27日 市長定例記者会見 会見録

◆司会

それではただ今から、市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願ひいたします。

◆市長

よろしくお願ひいたします。本日は冒頭、静岡大学・浜松医科大学の統合再編の問題について、私の所見をお伝えしておきたいと思ひます。浜松市が結成を目指している期成同盟会は、静岡大学の意向に関係なく進められようとしているものです。事実、静岡大学の日詰学長は、先日の記者懇談会で、期成同盟会の動きについて困惑していると表明しております。ですから、私はこのような当事者の意に反する動きについて、非常に残念に思っております。これまで私は一貫して申し上げてきましたが、統合再編といったテーマにあつては、大学の自治が尊重されなければなりません。つまり、大学のことは両大学において決めるべきだということでありまふ。後ほど改めてペーパーで記者の皆さんにはお渡しをいたしますが、誤解のないよう、これまでの経緯をお伝えいたします。

平成31年3月に静岡大学・浜松医科大学は、確かに法人統合・大学再編案に合意いたしました。しかしながら、同じ年の7月には文部科学省から静岡大学などに対して、1法人複数大学制度を活用するに当たっては、地元の自治体等の関係者の理解を十分に得るべきだという通知が出されています。ですから、そのことを受けて、9月に当時の静岡大学、石井学長が私に対して、統合再編についてゼロベースでの協議をお願ひしたい、という申し出がありました。そして、次の年の1月に、静岡大学と静岡市が共同で静岡大学将来構想協議会を組織したという経緯です。

しかし、その協議会で、市長である私は参加しませんでした、あえて。これは首長が深く関与し、政治案件化したくないということに他なりません。そして、この協議会は1年間にわたる協議を経て、令和3年3月に取りまとめを行い、石井学長に報告いたしました。その報告の骨子は、「法人統合は理解できるものの、静岡大学を分割して地区ごとの大学に再編することは、特に静岡キャンパス側のメリットが分かりにくく理解しかねる。そもそも総合大学としての静岡大学の将来像が見えてこない」というものでありました。一方、静岡大学・浜松医科大学両大学は、統合再編推進を目的とした文部科学省の補助金、国立大学改革強化推進補助金を申請し、採択され、令和元年度から受けてきました。しかしながら、その補助金を活用した取り組みに対して、文部科学省の検討会が昨年3月に示した評価は、最低のC評価、すなわち十分な成果が得られていない

というものでありました。その評価に際しての付帯意見によれば、今後の展開に期待する意見がある一方で、こう書いてあります。医学、工学、情報学の連携は、現在のままでも十分に可能である。2大学に再編することでの静岡県全体に対するインパクト、教育研究所のメリットが判然としない。こういった意見もあり、いわゆる大学再編案に対して、厳しい見方がされております。これが、これまでの経緯であります。石井前学長から引き継いだ日詰学長は、この問題解決のために精力的に議論を重ねてこられ、先月末、期成同盟会に関する報道を受け、2月9日に記者懇談会を開催し、ご存じのとおり学長としての考えを示しました。

その考えは、私が言うまでもないことでもありますけれども、二つあります。一つ目は、当初の合意の後に出された文科省通知や補助金評価の付帯意見など状況が大きく変化している中、合意案のまま大学再編を進めることは困難である。また、もう一つは、1法人1大学の大きな総合大学こそが、専門性と総合性を融合した裾野の広い教育研究が展開でき、合理化や効率化も図られ、静岡県全体にとって望ましいというものであります。私はこの問題が大変困難な状況にあるということは理解していますが、大学として、この問題に真摯に向き合い、大学の責任で解決の糸口を見いだそうとしている日詰学長の取組を、大学自治の観点から強く支持するものであります。これからも静岡大学・浜松医科大学の当事者による議論を見守ってまいりたいと思います。私からは以上であります。

それでは今日の本題に入ります。第81期名人戦、第2局と第78期本因坊戦を、また静岡市で開催できるという朗報であります。本日の幹事社質問も、この名人戦に関するものを頂いているようですので、冒頭、幹事社さんから質問をいただければ、それを答える形で進めたいと思います。

◆静岡朝日テレビ

すいません。静岡朝日テレビです。よろしく申し上げます。今のお話に関連する幹事社質問なので、この場で質問させていただきます。来月、葵区の浮月楼で、将棋のA級順位最終局が行われます。藤井聡太五冠が名人の挑戦者になるかもしれないということで注目されています。全国的に注目される一戦が静岡市で行われることについて、市長の受け止めをお願いします。

◆市長

大変うれしく思っております。「家康公が愛したまち、静岡」ということで、将棋と囲碁の文化の下支えをしたいという呼びかけに応じて、今回、1回ではあるんだけど、引き続き、この静岡を選んでくれたということを大変うれしく

思っています。パネルがございますので、それで説明したいと思います。

ご存じのとおり将棋名人戦、囲碁本因坊戦の起源は、徳川家康公が駿府城において、当時の第一人者であった将棋指しの大橋宗桂、あるいは囲碁打ちの本因坊算砂ら8人に俸禄を与え、そして、将棋・囲碁家元として正式に認めたことにさかのぼると言われています。家康公は天下泰平の時代、将棋・囲碁に深い関心を示し、ご自身でもたしなんだのみならず、時の実力者たちに駿府城に招き、御前での対局を行わせ、その将棋文化・囲碁文化の普及に努めました。そして、400年後の今日、将棋界には八つ、囲碁界には七つのタイトル戦が存在します。その中でも最も歴史あるタイトル戦が、この将棋の名人戦と囲碁の本因坊戦であります。今年は歴史博物館のグランドオープン、大河ドラマ館オープンと、静岡のまちが家康公、歴史一色に染まっています。このような年に、家康公にゆかりの深い名人戦と本因坊戦を静岡市で開催できるということは、たいへん時宜にかなった、追い風になる良い機会に恵まれたと思っています。

次のスライドをお願いします。振り返りますと、本市では2015年度、3次総の初年度でありますけれども、平成27年度にも徳川家康公顕彰400年記念事業の一環として、将棋の第73期名人戦と囲碁の第70期の本因坊戦を開催しており、今回は8年ぶりの開催となります。8年前の名人戦・本因坊戦とも、関連イベントには多くの愛好者も皆さんが県内外からご参加をいただいております、県外からはおよそ3割の方においでいただきました。そういう意味でも交流人口の拡大にも大変効果がありました。また、名人戦と本因坊戦ですから、全国的にも大変注目が高いということで、静岡市がクローズアップされる機会もたくさんありました。今回、将棋の名人戦のほうは第2局を4月27日、28日、囲碁の本因坊戦は5月に、いずれも葵区紺屋町の浮月楼にて開催いたします。これもご存じのとおり浮月楼は、大政奉還後に江戸幕府最後の将軍である徳川慶喜公の住まいとなった屋敷の跡地にあり、静岡市の歴史を語る上で欠かすことのできないユニークベニュー、特別な場所でもありますので、そこでタイトル戦を開催することにより、全国からお越しいただく方々に、静岡の歴史文化をアピールすることができるものと思います。将棋・囲碁が本命ではあるでしょうけれども、時間の許す限り博物館やドラマ館、葵舟も乗船をいただき、静岡の歴史というものを堪能していただければうれしいなというふうに思います。それに向けての優待キャンペーンも目下考えております。また、今回も各タイトル戦の開催に合わせて、大盤解説会やお子さま向けの入門教室、あるいは歴史博物館と連携したワークショップなども予定をしています。こうした機会が将棋文化や囲碁文化、子どもたちが将棋や囲碁、さらには静岡市の歴史文化にも関心を持ってくれるきっかけになることを期待しています。

最後に、対局棋士とお菓子のことでありますけれども、おやつですね。まず対局

棋士は、名人戦は渡辺明名人が、本因坊戦は井山裕太本因坊が、それぞれのリーグ戦を勝ち抜いた挑戦者と対局します。名人戦の挑戦者を決めるA級順位戦最終局は来月2日に、静岡市で開催いたします。現在の戦績は、藤井聡太五冠と広瀬章人八段がともに6勝2敗で並んでおります。ですから、最終局の結果によっては、最大5名の方々が名人戦の挑戦者を決めるプレーオフ進出の可能性が残るという大混戦、非常に見応えのある戦いになっております。このように全国的にも注目を集めている対局が静岡市で開催されることはうれしく思いますし、また静岡市と家康公、家康公と将棋・囲碁との関連にある背景のストーリーにも注目していただけるよう、立体的にアピールしていきたいと思っています。また、このA級順位戦最終局でも関連イベントを計画しています。大盤解説会はもちろんのこと、サイン会や子どもの将棋大会などが開催準備中であります。

最後のスライドです。よくテレビのニュースでも話題になりますけれども、棋士の皆さんの食事やおやつ、何を選んだかということですね。ですので、静岡市の食というものをアピールする、これも絶好の機会であります。そこで今回、タイトル戦の開催に合わせて、棋士の皆さんにメニューとしてお示しをするおやつ候補を選ぶコンテストを開催したい、おやつ候補は静岡市内の洋菓子・和菓子店の皆さんから募集して、市民による投票などの審査を行って、当日のメニューに掲載するおやつを決定いたします。

注目を集めるタイトル戦ですので、事前のおやつ選びのコンテストにも、ぜひ注目していただきたいとお願いいたします。歴史伝統を受け継いだ名物のお菓子もあれば、今日的な創意工夫を生み出した革新的な新しい商品もあります。このタイトル戦でおやつとして選んでいただくことによって、そうした商品にスポットライトが当たり、全国の皆さんに、これがPRできれば、これは地域の経済の活性化にもつながると期待しております。パティシエに皆さん、職人の皆さん、お菓子職人の皆さんにとっても、自分たちの商品やお店の名前をアピールする絶好の機会と捉えていただき、静岡市を訪れる棋士の皆さんのおもてなしの一環に、ぜひ、ご協力をお願いしたいと思います。

将棋や囲碁といった文化を4次総でも継続をしていきます。将棋ファン、囲碁ファンに限らず、オール静岡でこのタイトル戦を盛り上げていきたいと思っておりますので、ぜひ、報道機関の皆様のご協力、ご支援もお願いを申し上げます。以上です。

◆司会

それではただ今の発表案件につきまして、皆様からのご質問をお受けしたいと思っております。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

NHKです。市長、冒頭におっしゃった大学再編のことを先に伺います。市長の考えをはっきりするために、私、どっちだという立場ではないんですけども、あえて伺いますけれども、川勝知事が先日の会見で、問題がこのようになっていく状況について、このように発言してます。静岡市側の大学の関与が先にあったと、で、浜松の方は当然怒ると、それが元々のボタンのかけ違いであると、静岡市がいちゃもんを付けて、そして、今日に至っているという表現で、要は先に協議会の設置という行動に出たのは静岡市じゃないか、ということをおっしゃってるわけですけども、これについて市長、何かおっしゃりたいことあれば伺います。

◆市長

先ほど申し上げたとおりの経緯をよくご理解いただければ、誤解が解けるのではないかなと思います。

◆NHK

そこはちゃんにご説明していただけますか。浜松市がけんかを吹っかけてきたという以前に、先に静岡市が政治的行動に出たんじゃないかという反発があるようですけども、その辺りはどう説明…

◆市長

全くの誤解です。私たちは静岡大学から申し出をいただき、協議会を発足をさせたという経緯ですので、知事の言うことは全く当たっておりません。

◆NHK

ありがとうございます。そして、それにしてもなんですけども、別に文部科学省もその後の通知も、1法人複数大学案が駄目と言ってるわけではなくて、地域の理解さえ得られれば、というふうにも読めるわけです。それで地域の理解を示さなかったのは静岡市であるわけですけども、結局、静岡市もこの問題に大学の自治とおっしゃいながら政治的に介入してるというふうにも取れませんでしょうか。

◆市長

取れないですね。静岡大学がそれまで、石井前学長の時に、静岡市の理解を得るというようなことはされていなかった。また、そのみならず静岡大学の学内の

理解というものも不十分であったという事実があります。

◆NHK

すいません、くどくて。それでも浜松側からすれば、静岡大学学内でどうであれ、もう合意書としてああいう形があるのだから、それを遵守するべきだというのは一つの意見としてあり得ることで、知事もそのようなことをおっしゃってますけども、合意書をどうしてひっくり返すのかっていう、この反発については市長、どのように理解求められますか。

◆市長

後ほどもう一度ペーパーを配付いたしますので、それをよくご覧になってから、もう一度ご質問いただきたいと思います。

◆NHK

いや、私が理解したいというよりは市長会見ご承知のとおり注目されてますので、浜松側の方に説明をするつもりで、その合意書が元々あるのに、という知事も指摘されてる点について、ご反論があればお聞かせください。

◆市長

まず、石井前学長時代に、静岡大学の中の理解が不十分だったということ。それにもまして静岡市、地域の自治体に対する説明も不足をしていたということ。そのまま浜松医科大学との合意案に突っ走ってしまったわけです。それがボタンのかけ違いです。そして、それを見た文部科学省が、本当に地域の理解を得ているのかという通知を、その年の7月に出したわけであります。ですので、石井前学長は、じゃあ静岡市の理解を得ようということで、協議会を作ってくれというところになったわけです。

◆NHK

そこで理解を求められる立場として協議会を持ち掛けられた中で、いやいや、もう、それは話を聞くのはもちろんいいですけども、決めるのは大学ですから、大学の自治を尊重しますよと、特に静岡市側から理解をしている、していないも含めて、特に言わないで置くという選択肢は、静岡市にとってはなかったですか。

◆市長

やっぱり静岡大学のあり方ということ、大学関係者、あるいは地域の方々に集まって1年間かけて議論してもらったわけです。そして、先ほど私が申し上げ

たような答申につながっているわけです。ですので、そのことについて、ぜひ静岡大学として今後、考えていただきたいということでもあります。それを決めるのは静岡大学であります。私はその協議会も、むしろ、これは大学自治の問題ですから、あえて会長にはならず、淡々と冷静な議論をお願いしたいということをお願いいたしました。いずれにしても私の本意は、これを地域対立にしたいくない。静岡市対浜松市という地域対立、政治案件化したいくないということでもありますので、ご理解いただきたいと思います。

◆NHK

わかりました。別の観点で伺います。この件で大学期成同盟会発足の動きがあって以来、康友市長とは何か、それこそ携帯電話で直接フランクな意見交換ですとか、話し合いをされたかどうか、お聞かせください。

◆市長

康友市長から何とか合意をしてくれというふうに、合意案を賛成してくれというふうに申し入れられたことはありますけれども、それは、このような経緯ですよ、大学の自治の問題ですよ、というふうにお答えをしております。

◆NHK

この件で康友市長と直接話したのは、大学期成同盟会の話が出てからですか、それとも去年の市長会か、何かにさかのぼりますか。

◆市長

そうですね。去年の市長会の頃ですね。

◆NHK

その時に相当、康友市長が強い口調で田辺さんに迫ったという話も出回ってますけど、その辺り、経緯、差し支えなければ。

◆市長

まあ、それは二人同士の話しですのでね。

◆NHK

それを最後に、特に康友さんとは話してない状況ですか。

◆市長

そうですね。

◆NHK

わかりました。ありがとうございます。

◆司会

静岡朝日テレビさん、お願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

静岡朝日テレビです。今の大学再編の話なんですけど、田辺市長は大学の自治を尊重するっていうようなことをお話ししたんですが、現状、静大と浜松医大の話し合いつて、あんまり大学同士でうまくいってないような気がするんですが、今後、統合再編に向けて、どのような議論の進め方が望ましいとお考えでしょうか。

◆市長

やっぱり統合再編というのは難しい問題なんです。我々は旧静岡市と旧清水市の合併をビジョンに掲げて、私自身も当事者の一人としてやってきましたけれども、十数年かかったんです。そのくらい、やっぱり、それぞれの歴史がありますし、背負っているものがありますので、やっぱり時間がかかるものだろうというふうに思います。これは、やっぱり、粘り強く当事者同士が、大学同士がしっかり議論をして、結論を見いだす。とりわけ統合というのは経営の合理化という点で必要ですので、静岡市も統合するという点では、いい統合をしてくれと。その次の大学のあり方というのは、いろいろ意見があるのだろうというふうに思っています。「彰往考来」、先日、施政方針の中でも副題と付けさせていただいた、やっぱり歴史に学んで未来を考えるって大事だと思うんです。覚えていらっしゃるでしょうか、私が中学時代、文部科学省が47都道府県、1県1医大、医学部構想というのを打ち出して、静岡県も、じゃあ医学部を国立大学に設置しようということになったんです。やっぱり、その時に政治案件化してしまったんです。そして、最終的に浜松医科大学が誕生したという経緯があります。やはり、そういう歴史の教訓というものにも、私たちは、やっぱり謙虚に学ばなきゃいけないというのが、私の考え方です。

◆静岡朝日テレビ

すいません。このまま溝が埋まらない場合に、両大学の統合はなくなるっていう

ことも可能性としてはあるとお考えでしょうか。

◆市長

それは大学の当事者にお聞きください。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。読売新聞さん、お願いいたします。

◆読売新聞

すいません。読売です。今の問題に関連して、改めてお伺いします。市長ご自身は日詰学長の立場を支持するっていうことですが、すいません、改めて個人的なご意見として、1法人2大学化については反対という、それは積極的に関わらないにしても、意見をお持ちということで、よろしいんでしょうか、つまり。

◆市長

今、2大学ありますからね、静岡大学と浜松医科大学。そのままの形でもいいのではないかというふうに思いますし、また、大きな一つの大学にするという考え方も、日詰学長のおっしゃるとおり、一つビジョンがあるなというふうに思っています。

◆読売新聞

今のままか、あるいは1法人1大学化がいいんじゃないかっていうお考えだっという…

◆市長

日詰学長はそういうふうに、私案というふうに断りを付けながら、そうおっしゃっていますよね。

◆読売新聞

ええ。ごめんなさい。ですから、じゃあ、市長も同じ考えであるということ…

◆市長

私もそれの一つ、県の東部のことも視野に入れて、一県の魅力ある学生にとって、

総合大学ということも、一つの考え方としてあろうかと思います。

◆読売新聞

ちょっと明確にはおっしゃってないですけど、同盟会の東部の裾野市等も参加を表明してますけど、これについては何か所感はございますでしょうか。

◆市長

それは、それぞれの自治体の考え方ですので、尊重します。

◆読売新聞

ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。発表案件につきましては以上ということ…ではNHKさん、お願いいたします。

◆NHK

たびたび、すいません、追加で。法人本部をどこに置くかについては、それは結果的に浜松市になろうが別な所になろうが、それは別に構わないという考え方ですか。

◆市長

それも大学同士で決めるべきことではないですか。

◆NHK

わかりました。ありがとうございます。

◆司会

その他よろしいでしょうか。それでは幹事社質問のもう1問のほうに移りたいと思います。朝日テレビさん、よろしくお願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

幹事社、静岡朝日テレビです。幹事社質問です。来月、およそ3年ぶりに清水港にクルーズ船がやってきます。清水港は来年度、過去最多の寄港ラッシュになる見込みだということですが、クルーズ船への期待についてお尋ねいたします。

◆市長

もう、これは期待するところ大であります。本当に長かったなと思います。ただ、この3年間、手をこまねいていたわけではありません。その中で、いずれポストコロナの時代を見込んで、また寄港してくれるというような受け皿づくりを着々粛々と進めてきた。そんな成果の中で、清水港が一等最初にクルーズ船の受け入れができるということになったんだらうなというふうに思っています。例えば、客船が寄港する日の出埠頭の周辺では、新たに緑地を作りました。乗客の皆さんがゆったりと清水で時間を過ごすことができるようになっていきます。一方、民間活力も旺盛で、ドリプラではマリーナサーカスという遊園地がオープンをしましたし、目下、新しい新館も建設進んでおります。そして、ご存じのとおり海洋・地球総合ミュージアムも事業者が決定し、3年後の春にはオープンに向けて動き出しています。ウォーターフロント地区だけでなく、静岡都心のほうも歴史文化の拠点づくりが着々進んで、ここにも多くの来訪者、クルーズ船のお客さん方、訪れていただきたいなというふうに思っています。ぜひ、クルーズ船で清水港に来たお客さんが、葵舟にも乗ってほしいなというふうに願っております。こうやって静岡市内を広く回遊してもらうこと、お茶という切り口からは島田もありますし、牧之原もあります。5市2町の連携中枢都市圏で広域観光も、今、するが企画観光局が一生懸命やっておりますので、そんな回遊性につながって、クルーズ船はほとんど日帰りですので、朝着いて夕方ですので、ぜひ、この5市2町の県中部の回遊性の仕組みを作って、それぞれの地域経済の活性化につながっていけばいいなというふうに思っています。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございます。

◆司会

それでは、ただいまの幹事社質問に関連したご質問があれば、まずはお受けをしたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、その他のご質問をお受けしたいと思います。質問がある方は、挙手の上、社名とお名前をおっしゃってから、お願いいたします。読売新聞さん、お願いいたします。

◆読売新聞

先日、一部、静岡新聞さんですけども、駅前の東急スクエアの営業危機についてちょっと報じられまして、撤退も取り沙汰されてるってことですが、市長のところにはどのような情報が入ってらっしゃいますでしょうか。あるいは、

もし本当に危機であるならば、市として何か支援を考えられていらっしゃいますでしょうか。

◆市長

そのような詳細についての報告は受けておりません。ただ、すごく大事な中心市街地の一角ですので、活性化につながるような次の動きが出てくれば、うれしいなと思っています。

◆読売新聞

具体的に何か話し合いとか、支援の場を設けるとか、支援っていうのは今のところそういう動きはないということによろしいですか。わかりました。

◆司会

その他いかがでしょうか。よろしいですか。それでは本日の記者会見は以上とさせていただきます。次回は3月13日の月曜日、午前11時からの予定となります。本日はありがとうございました。